

12年ぶりに引き上げへ

市は2月5日、令和6年度の国民健康保険(以下、国保)の運営について、市国民健康保険運営協議会(四方道人会長)に諮問し、答申を受けました。市はこの内容を尊重し、関連予算案を市議会3月定例会に提案しています。

準備基金が大幅減

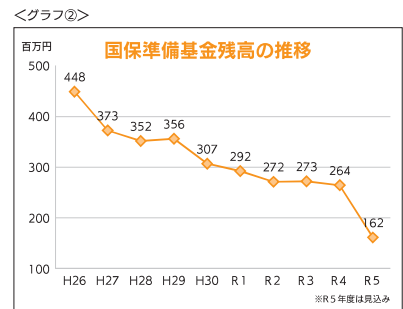
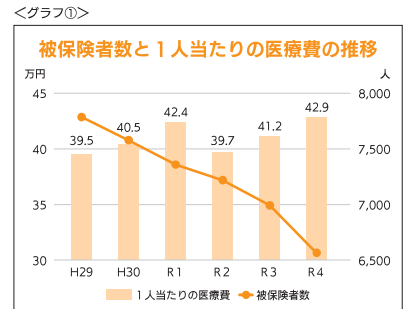
今回の答申の特徴は「保険料を引き上げざるを得ない状況は理解する」と示されたこと。市が諮問していた保険料の引き上げが答申にも盛り込まれ「やむを得ない」としています。



四方道人会長=写真左=から答申を受ける山崎市長

引き上げの理由は、国準備基金(貯金)が少なくなったことにある。国保とは、安心して医療を受けられるよう、加入者が保険料を出し合って医療費負担を軽減する制度です。近年は被保険者数が減る一方、高齢化や医療技術の高度化で1人当たりの医療費は増加しグラフ①。厳しい財政運営が続いていますが、基金を活用して収入を補填し、加入者の負担軽減を図るため平成24年度以降11年連続で保険料を据え置いてきました。

その結果、基金残高は減り続け、令和4年度決算では約2億6000万円まで減少。本年度末の基金残高見込みは約1億6000万円となり、保険料を引き上げない場



急激な負担増に配慮

現在の医療費水準に見合う保険料額にするには、約27割の引き上げが必要になります。これに対し、物価高騰などの社会情勢を踏まえ、加入者負担の急増に配慮。激変緩和措置として、基金を取り崩しながら複数年にかけて段階的に保険料を引き上げ、医療費水準に応じた額にする考えです。

令和6年度末には枯渇する見込みですグラフ②。国保を安定的に運営するには一定の基金を確保する必要があるため、加入者に負担を求めざるを得ない状況になっています。

これにより、令和6年度の1人当たりの保険料の平均年額は8万9901円と、昨年比17・31割増になります。保険料の内訳は、医療給付費分が5万8201円(同比16・15割増)、後期高齢者支援金分が2万3265円(同比22・4割増)、40・64歳が対象の介護納付金分が2万7865円(同比9・4割増)です。

市は今後、歳出削減と保険料取納率の向上などに取り組み、健全な事業運営に努めます。将来にわたって安心して国保制度を利用できるように、ご理解とご協力をお願いいたします。詳しくは、市民・国保課 ☎(42)4246へ。

令和6年能登半島地震被災地への支援状況

1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援のため、現地へ本市職員を派遣しています。今後も被災地のニーズに応じて、復旧・復興に向けた支援を行います。

本市の主な取り組み (令和6年3月5日現在)

- ・緊急消防援助隊 (1月1～23日)
緊急消防援助隊京都府大隊として消防職員31人を石川県珠洲市へ派遣。救出活動などに従事しました。
- ・避難所運営支援 (1月22日～2月26日)
市職員7人を七尾市に派遣。支援物資の受け渡しや簡易トイレへの給水などといった避難所運営を支援したほか、市役所で災証明の発行を補助しました=写真①②③。3月にも2人の派遣が決定しています。
- ・給水支援 (1月31日～2月5日)
市職員2人と給水車を能登町に派遣し、給水活動を行いました。3月にも2人派遣します。
- ・栄養管理支援 (2月9～15日)
管理栄養士1人を珠洲市へ派遣。自衛隊と炊き出しの調整を行うなど、避難者や要配慮者等の栄養管理を支援しました=写真④。
- ・健康管理支援 (2月25日～3月2日)
保健師1人を珠洲市へ派遣。避難所を巡回し健康観察を行うなど、要配慮者等の健康・衛生管理を支援しました=写真⑤。



人手不足の正体



人手不足が深刻だ。賃金と比較的低い職種や3K(きつい、汚い、危険)と称される労働条件の厳しい業種では指摘されて久しいが、最近ではほとんどの業界で働き手の確保に悩む大きな社会問題となっている。行政の分野でも技師は慢性的に不足しており、近時は教員の確保も憚らない。その原因として働き方改革の影響とか、依然として残る様々な規制が取り沙汰されているが、「労働人口」の推移をみると人手不足になるのは一目瞭然である。

すなわち、後期高齢者になって労働市場から退場せんとする、いわゆる戦後ベビーブーマー世代は年に約200万人。一方、新たな労働人口として二十歳を迎える数は100万人強で、その差100

万人。日本の労働市場は年100万人単位で縮小しているのである。ちなみに今年の出生数予測は80万人を切るのとこと、上向き気配はない。

これに対し今までは何とか高齢者と女性の力で補ってきたが、それも限界に近く、そのため出入国管理法を改正するなどして外国人労働者を増やしているのが昨今の実状で、本市でも街なかでそれと思しき人を見かける機会が増えていく。しかしそれとて日本全体で数十万人程度に過ぎず、前述の年100万人規模の縮小を埋めるにはほど遠い水準である。

となると、モノやサービスで従来と同じ質と量を供給することは困難となり、対策としては「やり方」を変えるか、生産場所を海外に移すかの選択が求められるが、「技術立国」日本としては人口知能(AI)やロボットを駆使してデジタル変革(DX)で省力化を進めるしかなかろう。人手不足の正体が見える化した限りは、市役所業務において住民サービスや内部管理、そして国や府とのシステム統合へのDX導入が待ったなしだ。

山崎善也(綾部市長)

不審者から子どもを守る方法学ぶ

市、市教育委員会、水夢（山本雄史社長）は2月20日、青野町のあやべ健康プラザで、子どもの安全確保を目的とした合同の防犯訓練を実施しました。綾部警察署生活安全課から講師を招き、あやっこひろばと図書館、同プラザの職員14人が、子どもを狙う犯罪の傾向や対処方法を学んだほか、不審者が現れる場面を想定した実演などを行いました。山本社長は「あやテラスがオープンして両施設間の子どもの行き来が多くなっている。連携を取りながら子どもたちの安全・安心を守っていききたい」と話しました。



綾部の茶 2年連続最高賞に

昨年7月に宇治市で行われた「第41回京都府茶品評会」で高い評価を受けた生産者の褒章授与式が2月15日、同市で開催。綾部緑茶生産組合の福井ヒデ子さんが、かぶせ茶の部門で最高賞となる1等1席（近畿農政局長賞）を受賞したほか、審査成績が最優秀の市町村（産地）に授与される知事優勝旗が2年連続で本市に手渡されました。

山家地区で交通空白地有償運送事業始まる

3月1日、山家地区内で交通空白地有償運送事業「山家タクシー（通称：山タク）」の運行が始まり、鷹栖町の基幹集落センターで出発式が行われました。事業の実施主体である山家みらい（波多野隆史理事長）の関係者らが集まり運行開始を祝いました。同事業は、公共交通が十分でない地域で、地域の組織やNPO団体等が自家用車などを使い、営利とは認められない範囲の運賃で運行する制度。「山タク」は、於与岐町の「みせんバス」、口上林地区の「なかやま号」、奥上林地区の「やまびこ号」に続き、市内4例目になります。



市立病院に新任医師



青野町の市立病院（高升正彦院長）に3月1日、泌尿器科の宇都宮匡徳医師が新たに赴任しました。着任に当たり、宇都宮医師は「鹿児島出身ということもあり、自然豊かな綾部市は馴染みやすいのではないかと考えています。少しでも皆さんのお役に立てよう一生懸命努めてまいりますので、よろしくお願いいたします」と話しました。

令和5年度 入賞作品決定

あやべ観光デジタル フォトコンクール

特選



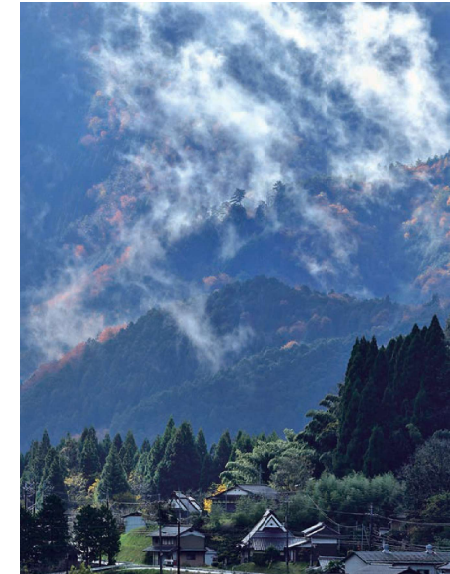
綾部商工会議所賞
和傘イルミネーション
杉野健一（福知山市）



綾部市文化協会賞
水無月さんと逢いましょう
築山忠則（京丹波町）



京都新聞賞
美しい森
畑田幸代子（福知山市）



大賞
綾部市長賞
ふるさとへの山に向かいて言うことなし：
松岡秀雄（舞鶴市）



あやべ市民新聞社賞
神秘の森
朝子政司（野田町）



京都府観光連盟賞
清流にあそぶ
福井齋（大津市）

市内外から233点集まる
本市の豊かな自然や文化などの魅力の発信を目的に開催する同コンクール。応募作品233点から大賞1点、特選5点、入選10点が選ばれました。大賞、特選以外の入選者は次の皆さんです（順不同、敬称略）。
浅巻治子（神宮寺町）▽阿比留健次（西町三丁目）▽上田浩史（味方町）▽高橋摩也斗（新庄町）▽中山茂樹（上野町）▽野々垣泰輝（並松町）▽山口健治（青野町）▽阪田清（舞鶴市）▽杉尾茂樹（南丹市）▽桑原秀樹（滋賀県）
入選作品は3月21日（木）から4月7日（日）まで、あやべ観光案内所（駅前通り）で展示。以降、京都北部信用金庫西町支店（西町二丁目）、天文館（里町）、あやべ温泉（陸寄町）を約1カ月ごとに巡回展示します。

市観光協会（平野正明会長）は、デジタルフォトコンクールを開催。本市の観光を積極的に推進するため、「輝くあやべ・再発見」をテーマに観光写真を募集し、このほど入賞者を発表しました。大賞は、五津台町で撮影した、松岡秀雄さん（舞鶴市）の作品です。



私たちの心のふるさと、あやべ水源の里。その活動を順に紹介しながら、集落の元気のヒミツや日々を楽しく暮らすコツを探ります。

水源の里・市野瀬

自然薯で地域の活性化を図る

市野瀬は平成24年7月、自然薯栽培で地域の活性化を図りUターン者の定住促進を目指して水源の里の指定を受けました。

市野瀬では、昔から地元の山で自然薯を採ることが盛んでした。



じねんじよまつりは毎年12月にあやべ温泉で開催。自然薯の人気は高く早々に売り切れることも



市の公式動画旬をお届け！「撮れたてあやべ」の250を超える動画の中で、再生数1位は市野瀬の自然薯栽培

この自然薯を地域の特産品として商品化するため、畑での栽培に挑戦したのは今から30年以上前。栽培方法が確立されていないことや獣害などさまざまな苦労がありました。現在では改良を重ね、年間500本を超える収穫があります。収穫した自然薯は「じねんじよまつり」で販売し、活動の貴重な財源になっています。市野瀬はこのほか、景観事業にも注力。サクラを植樹したりスイセンとヒマワリを街道に植えたりして、集落を訪れた人を楽しませる取り組みを継続しています。中嶋茂樹代表は、「自然薯のオーナー制度に挑戦し、都会から人が頻繁に訪れる仕組みを作り、集落に新しい風を吹かせたい」と将来の展望を語りました。

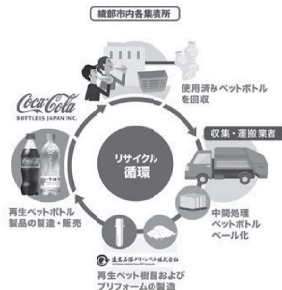
環境コラム

使用済みペットボトルを新たなペットボトルに

市は1月10日、ペットボトルの水平リサイクルに関する協定を締結し本紙2月号9面参照。使用済みペットボトルを新しいペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」を4月1日から開始し、持続可能な循環型社会の実現を目指します。

二酸化炭素の発生量を6割抑制

4月以降は、市が収集した年間約70万本の使用済みペットボトルを、遠東石塚グリーンペットが再原料化し、コカ・コーラポトラー



ズジャパンが自社のペットボトルに作り直します。これにより、1からペットボトルを製造するよりも、約60%もの二酸化炭素の発生量を削減できます。

より効率的に水平リサイクルを促進するには、ペットボトルの適切な排出が必要です。使い終わったペットボトルは水ですすぎ、ふたやラベルを取ってから指定収集日に出しましょう。ただし、汚れが取れない場合は「燃やして処理するごみ」として処理してください。

環境啓発も実施

市は2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする、ゼロカーボンシティの実現を目指しています。今後は協定に基づき、子どもたちへの環境学習のほか、イベントなどでの環境啓発も実施する予定です。市民、事業者、行政が一体となり、「ボトルtoボトル」の取り組みを進めていきましょう。

シリーズ 人権を考える

⑬ 令和5年度綾部市全職員人権研修

「部落差別の現在 差別のしくみから考える」

関西大学社会学部教授 内田 龍史さん

多数派の当たり前が差別へ

市は2月8日、青野町のあやべテラス・ホールで市役所の全職員を対象に入権研修を実施しました。

講師の内田さんはまず、差別のメカニズムを解説。「社会の当たり前は多数派を前提につくられている」とした上で、差別とは「少数派を『普通ではない、変わった人たち』などともみなして遠ざけ、



見下し、仲間外れにする、あるいは存在を『無視』すること、また「それらを容認する社会の仕組み」と話しました。

人権や反差別の発信者に

多数派にとって差別は見えない構造になっているため「同和問題（部落差別）」についてよく知らない人は、誤った情報をうのみにして一般化し、無意識に広げてしまう危険性がある」と内田さんは指摘。インターネット上で被差別部落へのマイナスイメージが拡散されている現状を取り上げ、差別や偏見を防ぐには同和問題（部落差別）を正しく理解する学が必要と訴えました。最後に「二人一人が人権や反差別の発信者として、差別のないより良い社会にしていけるには何ができるかを考えましょう」とメッセージを送り、講演を締めくくりました。



今月の手話

コミュニケーション



両手の5指を「C」の形にしてみ合わせて前後に交互に動かす

協力：京都府聴覚障害者協会綾部支部

資料館だより

綾部市資料館春季企画展

上林城と藤懸陣屋

中上林地区にある上林城に関する昔の発掘調査成果や藤懸陣屋に関する資料を展示します。

日時：3月26日(火)～5月19日(日)
午前9時～午後5時（月曜日休館）

場所：資料館（里町）

入館料：無料

展示解説：3月30日(土)、5月3日(金・祝)午前10時～
上林城跡の発掘調査担当者であった中村孝行さんによる上林城についての説明と、学芸員による展示解説を行います（30分程度）。

＜問い合わせ＞
社会教育課文化財担当
☎(42)4328、☎(43)2134
資料館（土・日曜日、祝日のみ）
☎(43)1366

藤懸陣屋の絵図（上林権寺（八津合町）所蔵）